

# 掲示版

第2号

# こ～じのう



発行所 (社福)千葉県身体障害者福祉事業団  
 千葉県千葉リハビリテーションセンター  
 発行責任者 高次脳機能障害  
 相談支援体制連携調整委員会  
 委員長 吉永 勝訓  
 〒266-0005 千葉市緑区誉田町 1-45-2  
 TEL 043-291-1831 (代)内178  
 発行日 2007年7月20日

## も く じ

巻 頭	どうぞよろしく	1
就労支援		2
報告	プロジェクト・班だより	3
報告	全国の動き	4～5
報告	サポートボランティア養成講座	6～7
家族交流会		7
高次脳研修会		7
こんにちは!		7
まめ知識コーナー		8
インフォメーション		8
編集後記		8

# どうぞよろしく

こ～じのうき のうしょうがいそうだん し えんたいせいれんけいちょうせい いんかい  
 高次脳機能 障害相談支援体制連携 調整委員会

いいん なかむら ひろし  
 委員 中村 弘

千葉県救急医療センター 医療局長



救命救急センターは、重症の病気や外傷の患者さんの救命と急性期治療を使命としています。そのため、患者さんの病状が落ち着けば、その

後の治療やリハビリテーションは他の病院・施設にお願いすることにになります。このような分業体制は医療制度としては合理的なのですが、患者さん・家族の立場からみるとメリット(地元の病院にかかれるなど)とともにデメリットも多いと思われます。とくに医療・福祉にまたがる長期的な支援を必要とする「高次脳機能障害」の患者さんに関してはデメリットが大きかったと推察されます(さらに地域社会や雇用環境にまで問題は拡がりを持ちますが)。退院後、就学・就労などで困っているという電話相談は20年以上前からありましたが、(もっと重い後遺障害の方も含めて)ほとんどの患者さん・家族は誰に相談してよいか分からないので私どもへ直接電話したとおっしゃっていました。平成13年度から千葉県でも始まった高次脳機能障害支援モデル事業が5年間にわたって実施され、引き続いて昨年スタートした「高次脳機能障害支援普及事業」によってそのような状況が変わろうとしています。しかし、当然のことながら制度ができて即、問題が解決するわけではありません。高次脳機能障害支援の「川上」の立場にいる救命救急センターとしては、治療の質を高める(障害を少なくする)努力とともに、「支援普及事業」に積極的に関わり、また利用させていただいてその役割を担って行きたいと考えています。

# 高次脳機能障害の方への就労支援

障害者職業総合センター社会的支援部門  
研究協力員(相談支援員) 伊藤信子

障害者職業総合センター社会的支援部門では、高次脳機能障害支援普及事業の拠点機関である千葉リハビリテーションセンターにご協力いただき、就労支援に携わる人員として試験的に「相談支援員」を千葉リハビリテーションセンターに配置し、医療機関と就労支援機関の連携によるネットワークの形成に関する研究をすすめております。

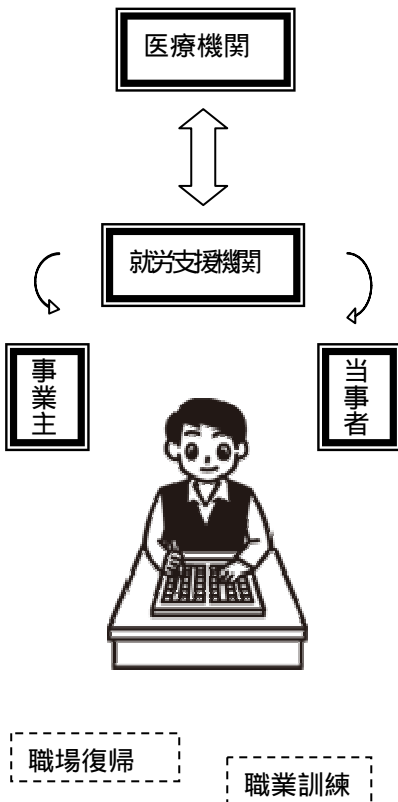
高次脳機能障害の方々は医療機関でのリハビリテーション終了後、様々なかたちで社会生活を送られています。その方々の中には仕事に就くことを希望される方、または休職していた職場への復帰を目指す方がいらつやいます。そのような方々への就労のための支援は、現在体制を整えている段階であり、今後の本格的な展開を目指しております。

高次脳機能障害の特性としては「見えにくい障害」と言われるように、「ご本人もお気づきでない特徴を持つておられる場合が多く、就労を困難にしている場合もあります。例えば、雇用主としては「ひとりで通勤できる」「一定時間勤務することが可能である」等を前提とする場合があります。

高次脳機能障害の方の中には、業務に関する技術の習得は可能であっても、上記のような勤務条件を満たさず、就職になかなか至らない場合もあります。障害の特性に対する理解や基本的な労働の習慣の体得など、様々な専門的立場からの支援が必要であり、医療機関と就労支援機関の連携体制を整えることは重要な課題です。

「就職したいが、どのような仕事に向いているのか」「仕事に就くために、どのような点を解決したらよいのか」「職場復帰はできるのか」といった相談には、就労支援機関である全国に設置されている地域障害者職業センターが窓口となり、障害者及び事業主の方々に支援を実施しています。また就労支援とは、職業に就くことのみではなく、職業訓練を受けるための支援、または生活訓練への支援等も含まれます。

利用者のご要望をお伺いし、障害の特性を十分に把握し、「働く」ことを柔軟な発想で検討し、その時点でどのような支援が必要なのかを、様々な専門的立場から一緒に考えていくことが就労支援であり、効果的な連携体制づくりが必要とされています。



# 1 報告



地域連携部 江口

また、日本損害保険協会へは現在助成金の申請中ですが、今年度も「高次脳機能障害リハビリテーション講習会」を予定しております。平成20(2008)年2月2日(土)、千葉市美浜文化ホール(JR京葉線海浜検見川浜駅から徒歩10分程度・本年7月にオープン)にて実施いたします。今から予定していただければ幸いです。

広報啓発班からのお知らせ  
パンフレット「高次脳機能障害って、なあに？」が完成いたしました。各医療機関のご協力を得て、県内で高次脳機能障害の診断・評価の可能な医療機関等の一覧を掲載いたしました。ホームページ上でも公開していただきます。ご利用いただける方は必要部数をご請求ください。

広報・啓発班

## プロジェクト・班だより

このコーナーでは  
千葉県高次脳機能障害支援センターの活動を時報告していきます



地域連携部 江口

市町村相談支援班  
先にご報告いたしましたように、昨年度までで何とか全市町村への訪問は終えました。しかし、市町村の窓口へ相談に行つて「高次脳機能障害」そのものの存在も知らないという状況が全くないとも言えないのではないかと思っています。行政規模の小さい市町村では一人で様々なことを担当しており、異動があると引き継ぎも詳細までは行えないことと思われます。そこで去る6月11日、中央、東葛の両県障害者相談センター主催の「市町村新任者研修会(身体障害福祉関係)」で、高次脳機能障害についての時間をいただき説明してまいりました。今後ともこうした機会をお願いして普及に努めていきたいと考えています。

また今年度は、どこへ相談してよいか判らずにいる方も多いのではないかとも思われますので、市町村の専門職の方への普及も強めてまいりたいと計画しています。

# 2 報告

平成 19 年度 第 1 回支援拠点機関等全国連絡協議会報告

日時：平成 19 年 7 月 4 日

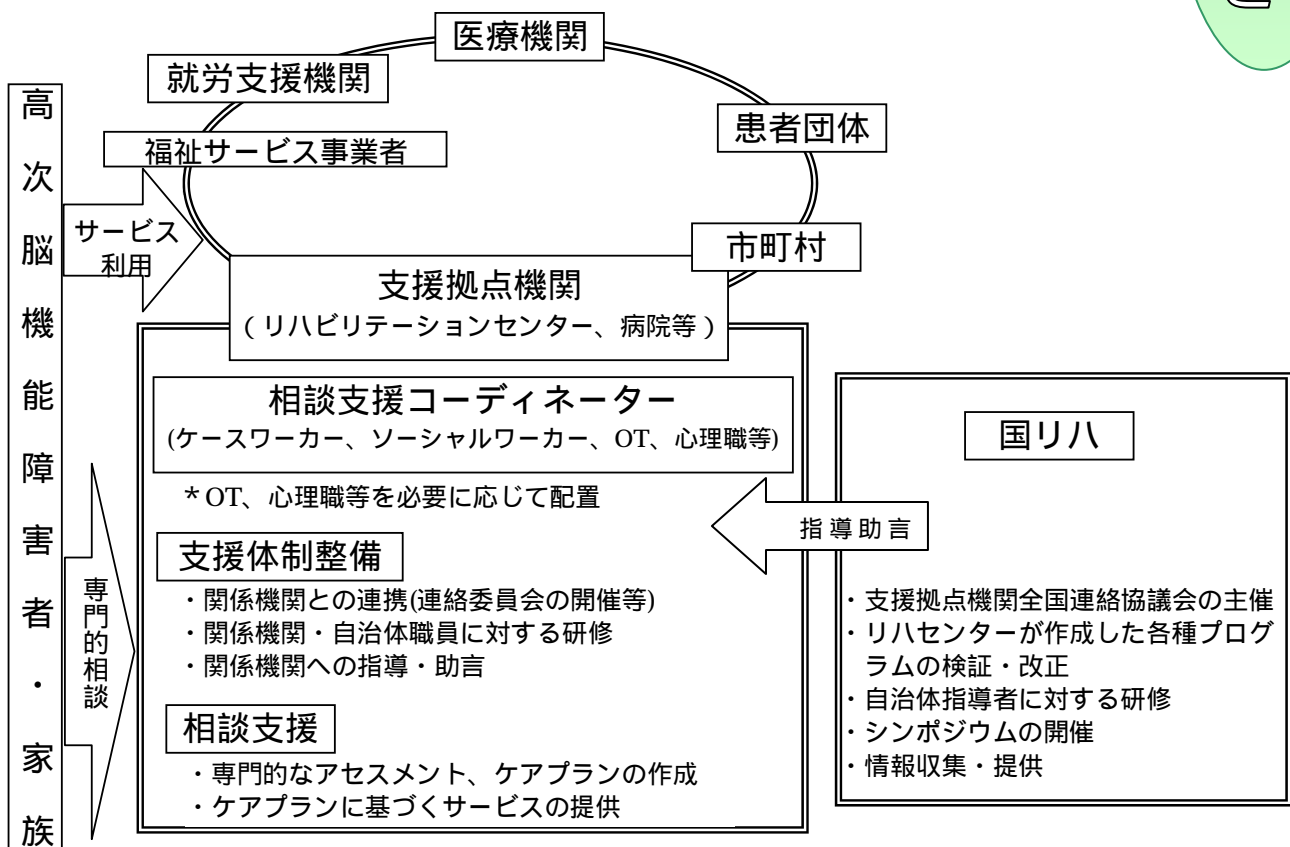
場所：国立身体障害者リハビリテーションセンター

議題：

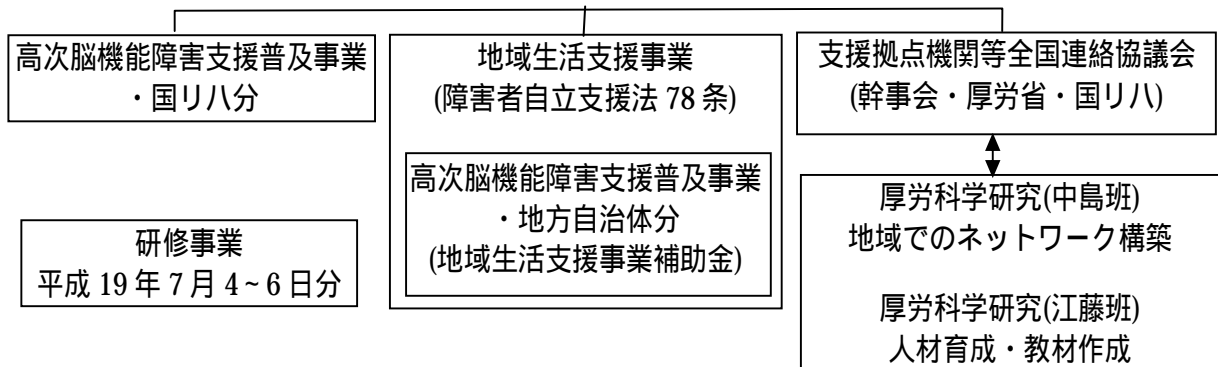
1. 委員長選出 江藤文夫氏(国リハ更生訓練所長)
2. 高次脳機能障害支援普及事業実施状況および 19 年度事業方針  
地方支援拠点機関等 支援拠点機関とする
3. 各都道府県事業と国リハ事業との関係



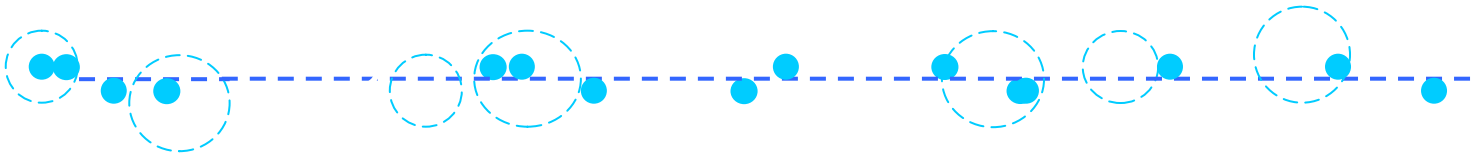
高次脳機能障害支援普及事業(イメージ図)



#### 4. 高次脳機能障害支援普及事業と関連事業

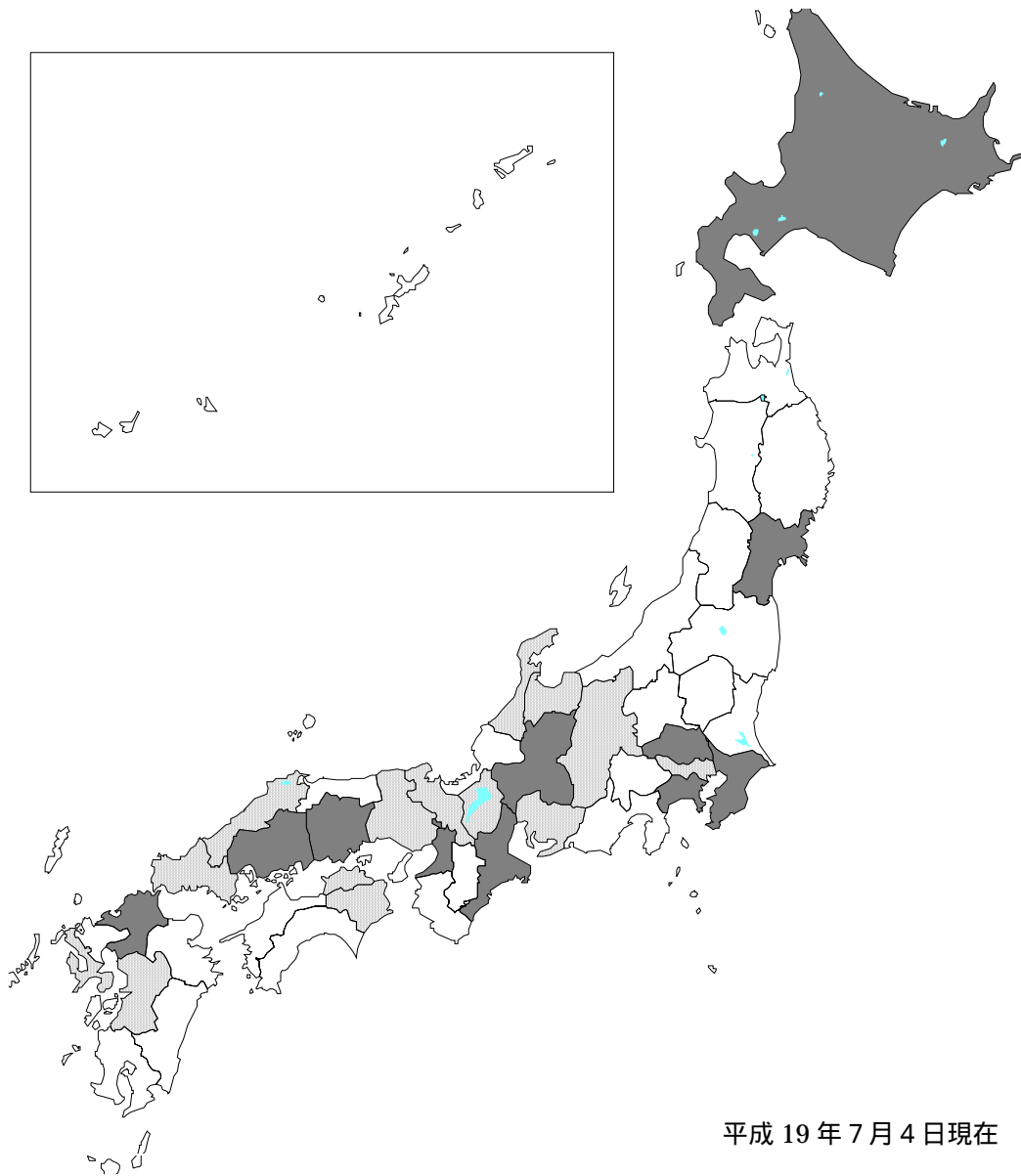






#### 4. 都道府県事業実施状況

■ モデル事業参加自治体    ▨ 支援拠点機関指定自治体



現時点で支援拠点機関の指定ができていない白抜きの自治体でも、そのほとんどは、高次脳機能障害支援普及事業に着手し始めており、平成 20 年度を目指して支援拠点機関を指定したいと考えている自治体が多かった。自立支援法の地域生活支援事業に位置付くことで、国からの補助事業となったことが大きいと考えられる。

文責：太田令子

こ~じのう掲示版ではご意見、ご感想、情報をお待ちしております！お送り頂いたものは掲示版に役立てていきたいと思っております。宛先メールアドレス kouji@chiba-reha.jp

千葉リハビリテーションセンター更生園では、高次脳機能障害の理解者を増やし、豊かな地域生活を実現することを目的に「高次脳機能障害者サポートボランティア養成講座」を行いました。日程とプログラムは後掲「プログラム一覧」の通りです。方法は講義と実習で、全十コマを企画しました。

この計画を進めるにあたり、千葉市社会福祉協議会緑区事務所の天田氏（ボランティアコーディネーター）に色々とお話を伺い、天田氏に伺った。天田氏によると、ボランティアにも流行があつて、最近のホットな企画は、環境と子育て支援に関するものだそう、それ以外はなかなか人を集めるのが難しいということでした。実習のことを考えると、あまり多くても対応出来ないと思いましたが、定員は十五名としましたが、それでも集まるかどうか不安でした。

ボランティア活動を行っている人または今後やってみたいという方々を対象に募集で、障害当事者一名とその家族五名の方々を含む、定員ピツタリの応募がありました。その年齢は20代から60代と幅広く、学生、主婦、社会人、定年後の方と背景も様々、正にノーマライゼーションの理念にかなった講座となりました。淑徳大学の小倉助教授の講義によると、日本では江戸の町火消し（本職は鳶職や大工）にその始まりを見ることが出来、最近では阪神淡路大震災での活動が最も注目された活動としてあげることが出来るとのことでした。

今回参加された皆さんの目的は、自己実現の場を求めてだったり、社会資源や当事者のための色々な社会参加の形を模索してのものだったり、障害を理解するためだったり、障害のある家族の理解のためであったりと、本当に様々で、色々な想いを持っていました。また当事者の飛び入り参加もありました。



## 高次脳機能障害者 サポートボランティア養成講座

このように主催者の意図に反して、様々な立場の様々な想いの方々が交流する場となったこの講座は、自ら語り出した当事者の言葉に驚き、共感し、思いがけないお互いの絆を結ぶ場となったように感じられました。一人ではないという孤独や孤立感からの解放。この体験がこれからの活動にどう影響するか・・・それはわかりませんが、少なくとも勇気と何らかの手応えをつかんで頂けたのではないかと思います。

千葉リハでは、当事者の方の活動の場が少ないことから、ボランティア活動による社会参加の場を開拓してきました。今回の講座ではそのひとつを紹介しました。ボランティア活動を、ボランティアに支えられて行っているという報告は、参加したご家族には希望の形として映りました。反面、障害当事者にとっていかに社会参加の場がないかを思い知らされたようでもありました。色々な想いを次につないだ講座であつたと思います。

振り返ってみれば、当事者とそのご家族が参加して下さったことによつて、この講座が一層意義深いものになったことは明らかです。今後もこのような企画を行う際は、必ず当事者を中心に据えていきたいと思ひます。

千葉リハが行う養成講座は障害の特性を伝えることが特徴であり、このことを通して、当事者の地域生活が楽しく生き生きとしたものになりますことを願っております。お互いに・・・ですね。私の「次」は養成した皆さんが活躍出来る場の開拓と提供・・・まずは更生園でどうぞ。（調理実習は盛り上がりました。）

更生園 小滝みや子

高次脳機能障害サポートボランティア養成講座【プログラム一覧】

日 程	講 座 内 容	講 師
3月7日(水) 13:00-14:00	千葉リハってどんなところ? ～自立を目指して～	千葉リハ肢体不自由者更生施設「更生園」 紹介・見学 清水直次(更生園生活援助科長)
3月7日(水) 14:30-16:00	ボランティア活動を始める前に	小倉常明氏 (淑徳大学助教授)
3月14日(水) 13:00-14:00	伝えたい わたしたちのこと・・・(仮題)	ちば高次脳機能障害者と家族会の会 角田義規氏
3月14日(水) 14:00-16:00	実習 若者の会(ミュージックベル) 一緒に音楽を楽しみましょう	田中みどり氏(ミュージックベル指導) 大塚恵美子(千葉リハリハ療養部心理)
3月21日(水) 13:00-14:30	高次脳機能障害???	大賀 優 (千葉リハリハ科脳外科医)
3月21日(水) 14:30-16:00	高次脳機能障害のリハビリテーション ～リハビリってどんなことをするの?～	岡村陽子氏 (専修大学講師)
3月24日(土) 13:00-16:00	高次脳機能障害交流会	千葉リハ 地域連携部主催
3月28日(水) 10:00-12:00	実習 ヤングBコース(調理実習) 作って、食べて、話しましょう エプロンをご用意ください。	生瀬真由美 (千葉リハ更生園)
3月28日(水) 13:00-14:00	地域のボランティア相談窓口 ～ボランティアコーディネーターとは～	天田 学氏 (千葉市社会福祉協議会緑区事務所)
3月28日(水) 14:00-15:00	私のボランティア体験 ～ボランティアと一緒にボランティア～	渡辺奈津子 様 ボランティア団体VAIC(バイク) 赤羽美智代様
3月28日(水) 15:00-16:00	閉校式(受講者交流会)	

家族交流会

高次脳家族交流会 3/24 千葉リハ主催

第5回 高次脳機能障害交流会は、去る3月24日(土)午後1時から行われました。事前の申し込み者59名でしたが、当日は94名の参加がありました。当日は、「東葛菜の花」世話人の綿貫様から御挨拶をいただいた後、当センター大賀脳神経外科部長による、「高次脳機能障害アラカルトその1」注意障害を中心に」というテーマでの講演、3テーマ(A話しましょう、B生活基盤を見つめましょう、C楽しみましょう)に分かれた分科会を行いました。

最後に、C分科会の「楽しみましょう」で練習したミュージック・ベルの演奏を全員で聴いて終わりました。

アンケートは、35件の回収が得られ(ご協力ありがとうございました)、「話したいことを話せ聞きたい事を聞けた」、「楽しかった」といった肯定的な評価をいただきました。次回以降の参考とさせていただきます。

地域連携部 江口



分科会C 楽しみましょう



分科会B 生活基盤を見つめましょう

こんにちは!



市町村で取り組んでいる様子を紹介していきます

ふつと、高次脳機能障害という大人のことを思い浮かべますが、実際には子どもも多くいます。原因は、脳外傷、脳炎、心臓疾患、インフルエンザ脳症、脳腫瘍などと多彩です。当事者のお子さんは、友達との遊びのペースについていけないために仲間に入れない、いじめられる、学習内容が覚えられない等、つらい思いをしています。保護者の方も、病気や事故に遭ってしまい、その結果勉強や友達関係でうまくいかない我が子に対して、なんとかしてやりたいという思いと裏腹にどうしていいのかわからず、日々大変心配しています。そんな高次脳機能障害を持つお子さんとご家族をサポートする場として、2007年1月に家族会を始めました。会のなまえば「ハイリハキッズ」といいます。千葉・東京・茨城・埼玉から12家族が参加しており、お子さんの年齢は、下は小学1年、上は中学3年です。例会は奇数月に行い、これまで3回開催しました。例会の会場は東京都江戸川区です。支援スタッフとして、医療や福祉の場で仕事をしている多くの職種が参加しています。例会では、親は親同士で話し合いを持ち、互いの経験を紹介したり情報交換したりします。子どもたちはスタッフと一緒にゲームをしたりして、楽しい時間を過ごします。保護者の方にとっては、役立つ情報が得られ家族同士の交流の中で元気になれる場に、またお子さんには、楽しくのびのび遊べる場所を提供できる、そんな場に例会がなることを願っています。

鈴木 勉

(都立大塚病院リハビリテーション科、言語聴覚士)



こちらでは、障害に焦点をあてた中での生活で使える訓練をまめ知識として掲載していきます

職場で電話を取りながらメモできない、物事をすぐ忘れてしまうなど、作業効率、記憶力が悪くて・・・と思うあなた。

そのまゝに頭はすっきりしていませんか？

脳は大脳、小脳、脳幹と分かれています。大脳は人間特有の言語機能や思考などを司っています。また大脳の前部分、前頭前野は適切な行動を計画し、衝動を抑制するなど社会規範にそった行動をとるようコントロールしています。

そして大脳より下に原始的な脳「脳幹」があります。

脳幹は呼吸や循環などの自立神経機能や歩行や咀嚼など基本的な生命活動を調整しています。

そして脳幹の神経は大脳に広範に繋がっており、影響を与えています。その脳幹からセロトニンという神経伝達物質が分泌されます。セロトニンは意識レベルや元気を演出する働きがあります。セロトニンが低下すると、うつ状態になったり、キレやすくなるそうです。つまり、大脳の働きがうまくいかなくなるのです。セロトニンは歩行や咀嚼などのリズム運動や太陽の光で活性化されます。ウォーキングなどの運動は20～30分で活性化されます。

また、セロトニン神経そのものを変化させる（遺伝子レベルで変化させる）のは約100日必要です。

毎朝、太陽の光を浴びること、朝食を食べること、ウォーキングなどはセロトニンを活性化させることになるのです。

今日から100日、朝、鎌取駅からリハセンターまで歩く秋頃には「できる人」になれるかも・・・。

作業療法士 篠筈 正子

## インフォメーション・おしらせ

# information

### 第3回高次脳機能障害 リハビリテーション千葉懇話会

日時 2007年11月6日(火) 18:30-20:00  
会場 サンパディックホール多目的ホール  
〒275-0026 習志野市谷津 1-16-1  
参加費 未定(詳細わかり次第お知らせします)  
内容 未定(詳細わかり次第お知らせします)  
問い合わせ先 千葉県千葉リハビリテーション  
センター地域連携部 相談室 森戸  
043-291-1831(代)内線179

### 第4回高次脳機能障害 リハビリテーション講習会

日時 2008年2月2日(土)午後  
会場 美浜文化ホール  
〒261-0011 千葉市美浜区真砂5-15-2  
参加費 無料 定員 350名  
内容 未定  
問い合わせ先 千葉県千葉リハビリテーション  
センター地域連携部 地域支援室  
043-291-1831(代)内線182



絵・クウタ

\\(^o^)/\\(^o^)/  
ビ外リ-

今年の夏は、キャンプがしたい！と職場で話していたら、「いいのがあるんだよ」と笑顔で答えてくれた編集長。そのキャンプに最近入隊？したそう。入隊？  
それはなんのキャンプ？さてさて、キャンプが大変なことになっているそう。それは左の方の後記でわかります。みなさんも夏に向けて、キャンプをしてみたらどうですか？きつと近くにキャンプをしなければならぬ人が沢山いるかも・・・(Y)

お待たせしました。ようやく第2号の発行です。創刊してまもなく臨時号の発行と、意気込んだのもつかの間、思い描いたようにはすすまず早くも暗雲が・・・。「継続は力なり」そう思っけれど継続ってなかなか難しいものです。継続といえは、たいたい世間の話題にもなっているキャンプに夜な夜な参加中。筋肉痛に苦しみなから、久しぶりに運動で汗を流す日々。冷や汗だらけの毎日よりは健康的と自画自賛。はて、いつまで続くことでしょうか？これが続くかどうかはどうでもいい事ですが、この掲示板は、皆さんの力を借りながら、よりよい内容を目指して継続したいですね。(M)

編集後記